

提言 1	[学校運営] 教員が現場に集中できるよう、県市学校の研修を整理する。(減らす)	p. 3
提言 2	[学習規律の一層の徹底] 個別化、個性化学習と、総合学習における学習方法等によって、知識の付与のみでない、人間力を養う授業を教員はこころがける。	p. 2
提言 3	[教員] 全教職員で連携を取りながら、児童・生徒の生活指導に当たり、お互いの人間関係を大切に作る職場にする。	p. 1、2
提言 4	[教員] 毎日の授業を通して学び合い、教師の質を高める(講師の指導はもちろんのこと)。	p. 1、2
提言 5	[学校運営] 教員が子どもへ集中できるよう、教員人事、カリキュラム作成、予算編成などで校長の裁量権を広げ、各校の自主運用を可能とする。	p. 3
提言 6	[不登校] ホームスクーリングを学校制度の一つのあり方として認める。	p. 2、3
提言 7	[不登校] 家庭で自学自習できる教材の利用。	p. 2、3
提言 8	[不登校] インターネットの活用。	p. 2、3
提言 9	[不登校] 学校不適応対策専門委員会に当事者の親を数名入れる。	p. 2、3
提言 10	[市民参画で教育改革を進める] 市長の諮問機関として、“教育の長期ビジョンを考える委員会”の設置。	p. 3、4
提言 11	[学校運営] 各小中学校に 10% までの校区外生徒枠を認める。	p. 3
提言 12	[学校運営] 学校方針策定、教員教育、教委や地域との折衝は校長、教頭、教務に一元化する。	p. 3
提言 13	[地域] 特に、郡部でジュニア・スポーツクラブを母体に組織化の進んでいる“総合型スポーツクラブ”をモデルとする。	p. 5
提言 14	[地域] “総合型スポーツクラブ”の組織化にそったプロセスで、“総合型文化クラブ”の組織化の可能性を模索する。	p. 5
その他	p. 3 から p. 7	
	補 足	p. 7

評価配点数値表について

(緊急性、必要性については、配点した委員の%。賛成・反対についても%だが、不明や無関心による保留があるため、合計のほとんどが 100 にならない。上記の提言には、反対なきものを上げたが、そのため賛成の%の低いものもある)

<p>< テーマ > [教員] 教員の連携と学び合いでの職場づくり</p> <p>< 見直すべき点 (現状) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校での行事、会合、研修、学級での児童・生徒の諸問題、学習指導・生活指導に日々終われ、残った仕事は家庭や土日に行っている。 ・ 休職する教員も多くなっている。 ・ 講師はその多忙の中で採用試験を受けることになるが、熱意を失ってやめていく人も

ある。

<改善の方向性(考え方)> 教員が児童・生徒に専念し、個別指導やふれあいの時間を多くすること。

<具体的な改善方法(提言)>

全教職員で連携を取りながら、児童・生徒の生活指導に当たり、お互いの人間関係を大切にする職場にする。

緊急性	60	必要性	80	賛成	90	反対	0
-----	----	-----	----	----	----	----	---

毎日の授業を通して(講師の指導はもちろんのこと)学び合い、教師の質を高める。

緊急性	50	必要性	80	賛成	90	反対	0
-----	----	-----	----	----	----	----	---

<テーマ>

学習規律の一層の徹底

<見直すべき点(現状)>

企業人から大学の教壇に立ってみて、今の大学生は総じて次のような力(人間力と総称)が弱く、大学での専門知識の吸収の妨げになっているように思う。このような人間力の付与も専門知識の付与も、社会への最終関門である大学に大半しわ寄せということでは、学生も教員もなかなか耐えがたく、国力弱体化の大きな原因となってくるのではないだろうか。

勇気をもって質問や提言を行う。 意思表示をする。 疑問や問題意識をもつ。

いろいろな教科で習った知識を関連付けて総合的に考える。 ノートを自発的にとる。

調査やまとめ方の戦略を立てる。 スケジュールを立てて実行する。 個々人の売り(特徴)を自覚した形で作る。

特に鳥取の子は他都道府県出身者と比べて の面で劣る人の%がやや高いように感じている環境大教員は私だけではない。義務教育段階から積み上げて行かなくてはいけない問題だと思う。

<改善の方向性(現状)>

教科学習でのQ/Aや総合学習を通じ、義務教育の段階で教師がかなり意識的にリードすることにより、人間力をつけていくことができるのではないか。今後は少人数学級になり、よりこのような努力が払い易くなる状況にあると考えられる。

<具体的な改善方法(提言)>

個別化(一人ひとりの裁量に任せた)個性化(一人ひとりの興味・関心に留意した)学習と、資料収集、フィールドワーク、取材、統計・分析・まとめ、(創作・研究)発表・質疑応答・ディスカッション、評価、計画等による、知識の付与だけでなく人間力(問題発見力、コミュニケーション力、情報整理力、時間管理能力など)を養うような授業を教員はこころがける。

緊急性	70	必要性	90	賛成	90	反対	0
-----	----	-----	----	----	----	----	---

<テーマ> [不登校] “否定感”なく家庭で過ごせる、学校制度内としての学びの保障

<見直すべき点(現状)>

近年、不登校の子どもに対して学校に戻そうという圧力が強まり、対応が学校復帰のみの目標となっている。当事者の声が反映されず、否定感だけが煽られている。

<改善の方向性（考え方）>

当事者の意思を尊重し、それぞれのケースにあった個別の対応、「子どもの学校適応」から「学校の子ども適応」への意識転換が求められる。家庭での学びを社会的に認め、“不登校児”のレッテルをとって否定感を緩和する。

<具体的な改善方法（提言）>

ホームスクーリングを学校制度の一つのあり方として認める。

緊急性	6 7	必要性	6 7	賛成	8 9	反対	0
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	---

家庭で自学自習できる教材の利用。

緊急性	4 4	必要性	6 7	賛成	8 9	反対	0
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	---

インターネットの活用。

緊急性	3 3	必要性	6 7	賛成	8 9	反対	0
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	---

学校不適応対策専門委員会に当事者の親を数名入れる。

緊急性	4 4	必要性	7 8	賛成	8 9	反対	0
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	---

<テーマ>

学校運営

<見直すべき点（現状）> 生徒も先生も生き生きと自信をもった毎日を送っていない

<改善の方向性（考え方）> 責任を明確に、管理を合理的に、現場が戸惑ったり不安にならないように。

<具体的な改善方法（提言）>

1 教員が子どもへ集中できるよう、教員人事、カリキュラム作成、予算編成などで校長の裁量権を広げ、各校の自主運用を可能とする。

緊急性	6 7	必要性	8 9	賛成	8 9	反対	0
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	---

2 学校方針策定、教員教育、教委や地域との折衝は校長、教頭、教務に一元化する。

緊急性	6 7	必要性	6 7	賛成	6 7	反対	0
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	---

3 教員が現場に集中できるよう、県市学校の研修を整理する。（減らす）

緊急性	8 9	必要性	1 0 0	賛成	1 0 0	反対	0
-----	-----	-----	-------	----	-------	----	---

4 各小中学校に10%までの校区外生徒枠を認める。

緊急性	4 4	必要性	7 8	賛成	7 8	反対	0
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	---

<テーマ>

市民参画で教育改革を進める。

<見直すべき点（現状）>

行政機関の中で、学校教育関係だけがCS（市民 顧客満足）度の向上に、配慮がされておらず、教育を受ける側の関係者（保護者・子ども・地域）の意見や考えを聴く場も限られている。

<改善の方向性（考え方）>

公正・公平・公開に則った民主主義の精神に従い、市民の総意と創意ある学校支援を結集し、教育の当事者の意見を反映させる。

<具体的な改善方法（提言）>

小中学校に、子ども・教師・保護者・地域が参加の「教育会議（仮称）」を設置する。それぞれから代表を出す。

緊急性	50	必要性	80	賛成	80	反対	20
鳥取市との共催で、「教育を考える市民集会」を開く。運営はNPO。							
緊急性	40	必要性	50	賛成	50	反対	20
市長の諮問機関として、「教育の長期ビジョンを考える委員会」の設置。							
緊急性	70	必要性	60	賛成	80	反対	0
教育委員会の開催事項の広報、市報・HP・傍聴等による公開。							
緊急性	40	必要性	80	賛成	90	反対	10
コーディネーターとして地域教育指導主事を設定する。							
緊急性	11	必要性	56	賛成	67	反対	11

<テーマ>		教科学習の充実					
<見直すべき点（現状）>		教科学習における現実から遊離した学習内容と、一斉画一授業が子どもたちの学習意欲を殺している。東大教授佐藤学氏の言う所の“学びからの逃走”により、克明な（教科）学力の低下する恐れがある。					
<改善の方向性（考え方）>		個別化・個性化を徹底して、個別対応による学習形態を積極的に取り入れ、教科学力の向上を図る。量から質へ、教わることから自ら学ぶことへ、教育者中心から学習者中心の学びを確立する。					
<具体的な改善方法>		現場の実態に合わせて、下記の学びをより推進する。					
緊急性	30	必要性	50	賛成	70	反対	10
読み・書き・計算、運動、楽器演奏等の、スモールステップアップのプリントや実技による、基礎・基本の育成のシステムを確立する。							
習熟度別グループ学習において、個別化・個別対応を徹底したマスタリーラーニングも取り入れる。							
主要教科の単元により、子どもたちの裁量で興味・関心・重点中心に基づく自学自習のプログラム学習を取り入れる。							
できる限り、総合学習に関連付け、現実生活とも連動し得る実用（可能性）化を図る。良くてできる子には、学習指導要領を超えた発展学習も取り入れる。							

<テーマ>		新しいタイプの学校づくり					
<見直すべき点（現状）>		大学入試や採用試験は時代に対応して変化しつつあるが、高校入試は義務教育の教科内容を市民としての基礎知識と考える固定観念の歪みがあり、義務教育でいかにも一律に、進学塾のように教育する傾向を残している。					
<改善の方向性（考え方）>		小中学校は、子どもたちの「智徳体」「智情意」の統合された全人的な「基礎づくり」の場であり、一律なほとんど受験知識の教科学習への偏りを是正する。個別化を進め、総合学習を充実し、より現実と連動して血肉化（全人的な基礎の定着）を図るべきだ。					
<具体的な改善方法>							

時代の変遷や多様化に対応した、新しい価値観の教育をリードする、新しいタイプの学校（オープンスクール、コミュニティスクール等）づくりを、下記によって進める。

（１）特区申請により、社会人も対象とした校長の公募採用を可能にする。

緊急性	29	必要性	43	賛成	71	反対	14
-----	----	-----	----	----	----	----	----

（２）改善の方向性に沿った学校づくりをする学校を、特別に予算をつけて支援する。

緊急性	30	必要性	60	賛成	60	反対	20
-----	----	-----	----	----	----	----	----

<テーマ>

総合学習の充実

<見直すべき点（現状）>

総合学習によって、子どもたちへもたらされるべき成果（公德心・公共心・規律ある自由と民主主義の精神・活力意欲や情操・多様な個性と能力・現代的な知識とリテラシー等）が芳しくない。全人的な基礎として重要であるが、これらに欠ける若者が目立っている。

<改善の方向性（考え方）>

教員の総合（プロジェクト）学習への指導力を高める。教員も学習者であり、周囲の人々や社会、自然から、実践的・実地的な活動により気付かされ教えられる学びを、自らよく学ぶ者こそがよく教えることができる。また、量から質へ、教育者中心（教えられる）から学習者中心（自ら学ぶ）の学びを確立する。

<具体的な改善方法（提言）>

校長の決定により、経験２年以上の教員（講師を除く）が、自ら課題を設けた研究・活動の校区住民を対象とする、年に２度の発表をする。課題は自由。

緊急性	11	必要性	22	賛成	44	反対	33
-----	----	-----	----	----	----	----	----

子どもたちが学校行事を、総合学習の集団活動として企画・準備・運営する。

緊急性	20	必要性	60	賛成	60	反対	30
-----	----	-----	----	----	----	----	----

子どもたちがテーマを自分で見つけて、自分で計画的な研究・活動を運営する。

緊急性	20	必要性	90	賛成	80	反対	20
-----	----	-----	----	----	----	----	----

<テーマ>

[地域] 総合型スポーツ・文化クラブの組織化

<見直すべき点（現状）>

子どもたちの地域における、放課後、休日の受け皿がない。子どもたちが気安く声をかけ、相談を持ちかけられる色々な大人たちが、子どもたちの側にいることが望ましい。

<改善の方向性（考え方）>

できたけ、子どもたちに近い各小学校に拠点を設け、地域の教育力を活用して、子どもから大人まで参加できるよう、受け皿作りのための環境整備を行う。

<具体的な改善方法> コーディネイト役を設置し、地域から受け皿作りを進める。

（１）特に、郡部でジュニア・スポーツクラブを母体に組織化の進んでいる「総合型スポーツクラブ」をモデルとする（鳥取市内では、中ノ郷小学校区）。

緊急性	14	必要性	29	賛成	57	反対	0
-----	----	-----	----	----	----	----	---

（２）「総合型スポーツクラブ」の組織化にそったプロセスで、「総合型文化クラブ」の組

織化の可能性を模索する。モデルとして、千葉県習志野市秋津小学校の「秋津コミュニティ」。

http://www.akitsu.info/aki_comm/comm.html (秋津コミュニティ)

緊急性	1 4	必要性	1 4	賛成	4 3	反対	0
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	---

<テーマ> 子どもの権利条約にかかわる提言

<改善の方向性(考え方)>

子どもたちの発展的成長を期し、量から質の尊重へ、子どもの学校適応から、学校の(個別対応を含む)子ども適応へ、教育者中心から学習者中心へ、教えられることから「自ら学ぶ」ことへの意識転換を育む。

<具体的な改善方法(提言)>

市教委に検討委員会を設け、昨年度に引き続いて推進する。

緊急性	1 1	必要性	2 2	賛成	4 4	反対	1 1
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	-----

<テーマ> 学力一層の充実策

<具体的な改善方法(提言)>

資金の支援を拡大し、所得の高くない家庭でも優秀ならば大学4年間、奨励金を交付し、全県民にも積極的にPRして周知徹底をはかり、他県人までが鳥取県に子どもと一緒に転入することを望むようにまで努力すれば、鳥取市の活性化も期待できる。

緊急性	2 0	必要性	4 0	賛成	5 0	反対	3 0
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	-----

熟度別教育を一層充実し、他県と比べ、実施が大幅に遅れたマイナス面を挽回して、塾に依存する異常な状態を解消させたい。その具対策は、教員の思いきった増員、競争環境ができる適正規模まで統合、生徒の通学の足の確保など惜しんでならないと考える。公立私立を問わず、他県の上位校の長所を学び取り実行してほしい。

緊急性	3 0	必要性	5 0	賛成	5 0	反対	3 0
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	-----

教員が格別な業績向上の実績を発揮した場合には、実態を正確精密に論争することが重要である...(論功)。

その結果、優れた事を認めた場合広く公表し、色々な方法で賞を実施する...(行賞)。

上記に反し、最悪の実績が連続し、改善の見込みのない教員には、当然何らかの罰則を規定し実施する...(必罰)。

緊急性	1 0	必要性	2 0	賛成	3 0	反対	6 0
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	-----

<テーマ> 人権同和教育に関わる提言

<見直すべき点(現状)>

目標達成にせまるため、現状を点検し、抜本的な改定が必要である。

<改善の方向性(考え方)>

30年以上の緊急・特別な実践を続けてきて、一定の成果を上げてきたが、今や国としての法的措置も終了し、市が全責任をもって進める体制になり、いよいよ目標達成の最終

段階を迎えようとしている。この時期に、子どもたちの成長や市民の実情に、より適した教育へと思いきった改定が必要と認める。

<具体的な改善方法（提言）> 特別な領域、強力な推進に必要であった「人権同和教育課」は、「学校教育課」と統合し、一体となって今後の推進にあたるのが、この教育の最終的成果を実現するために妥当な体制である。

緊急性	10	必要性	30	賛成	40	反対	20
-----	----	-----	----	----	----	----	----

<テーマ> 新しい歴史教科書の採用

<見直すべき点（現状）>

戦後58年、占領政策によって作られた歴史教科書で教育されている子どもたち、自分の生まれた国の歴史を悪く罵り軽蔑し、自分の国に対して愛着も誇りも持てない教育、謝罪と反省こそ正義と勘違いしている、自虐史観を教える国は世界で日本だけである。

学者の史学論争はともかくとして、祖先に感謝し自国に誇りを持って、国の発展に努力する意欲を持たせるのが国史教科書である。

<具体的な改善方法（提言）>

近隣諸国の顔色を伺はなければ、新しい歴史教科書が採用できないのか、わが国は独立国ではないですか、勇気を持って、鳥取市教育委員会は一部の反対は予想されるが、新しい歴史教科書の採用を決め、子どもたちに正しい自信と誇りを持てる教育をして下さい。

緊急性	30	必要性	30	賛成	30	反対	50
-----	----	-----	----	----	----	----	----

補 足

私たちが提言をまとめるにあたって、一貫性を貫きたくとも、皆が互いに親しくなるにつれ、メンバーの強い“思い”を排除するのは、時間不足もあり難しかったが、許される範囲と考えている。そのあたりは、数値表から感じ取っていただきたい。また、都合により加点に参加できなかった委員もあり、数値はアバウトなものを受けとってほしい。どちらにしろ、総員12名（評価配点者10名）の委員であり、市民全体から見れば、それほど根拠のあるものではない。

いま、数値表を一覧して、総論をまとめる暇もないが、「現場に権限を下ろし、教員たちが連携して子どもたちに集中し、有識者らによる“長期ビジョン”を明確にし、市民集会のような形で市民の民度を高めつつ、あらゆる決定のプロセスを透明に見守り、4者会議の形で学校側が説明責任を果たし、そこへ教育を受ける側の意思を反映させる」という構想を、感じ取ることができると思っている。

また、このWGの作業の過程で、学校現場や教育行政が自信を失っているのでは？との印象を得た。市民が協力して、支援することも重要なことなのであろう。

（文責 グループリーダー）